

2024年3月期第2四半期累計 決算説明資料

菊水ホールディングス株式会社
<https://kikusui-holdings.co.jp>

当社グループの紹介

P3～

2024年3月期 第2四半期累計 連結業績概要 P12～

2024年3月期 連結業績予想

P23～

● 会社概要 (2023年9月末現在)

社名(銘柄コード)		菊水ホールディングス株式会社(6912)	
設立		1951年(昭和26年)8月8日	
資本金		22億125万円(3月決算)	
発行済株式数		9,900,000株(1単元株数100株)	
事業内容		グループ会社の経営管理等	
大株主 (自己株式は含まず)		菊水取引先持株会	10.9%
		株式会社ケーティーエム	10.8%
		菊水電子工業従業員持株会	4.6%
		株式会社みずほ銀行	4.3%
		小林寛子	4.1%
		日本生命保険相互会社	3.6%
		アジア電子工業株式会社	3.5%
		ケル株式会社	2.6%
		株式会社三菱UFJ銀行	2.6%
		橋本幸雄	2.2%
代表者		代表取締役社長 小林一夫	
従業員数 (当社グループ)		332名(2023年9月末現在) []は前年比増減	
		研究開発	89名[+ 1]
		生産・購買	90名[+ 1]
		営業	121名[+ 7]
		管理	32名[+ 2]

● 菊水グループ各社の拠点



●は海外代理店

菊水ホールディングス株式会社

本社（神奈川県横浜市都筑区）

関連子会社

菊水電子工業株式会社(神奈川県横浜市都筑区)

2022年4月設立 連結 出資比率:100%

営業所:横浜、仙台、さいたま、名古屋、吹田、福岡(出張所)

菊水エムズ株式会社(山梨県南都留郡富士河口湖町)

2022年4月設立 連結 出資比率:100%

菊水貿易(上海)有限公司(中国 上海市)

2006年6月設立 連結 出資比率:100%

KIKUSUI AMERICA, INC. (米国カリフォルニア州トーランス市)

2004年10月設立 連結 出資比率:100%

Kikusui Electronics Europe GmbH

※菊水電子工業株式会社 子会社

2023年7月設立

フジテック株式会社(山梨県南都留郡富士河口湖町)

※菊水エムズ株式会社 子会社

1986年6月設立

沿革

1951
昭和26年

株式会社菊水電波設立
8月8日、東京都大田区馬込にて
資本金30万円、役員4名、従業員6名で発足
主要製品はラジオ用ダイヤル

創業社長 小林 証
(当時の写真、31歳)

創業時の建物

創業メンバー
小林正則(相談役)、小林 証(創業者)、尾崎栄造(副社長)
渡辺正彦(取締役)、一柳敏郎、広島 隆

初期のダイヤル

1957
昭和32年

**ダイヤルから
測定器メーカー菊水へ**
計測器がダイヤルの売上を上回る
OEMのトランジスタラジオも生産

低周波ディケード発振器
ORC-39A
当社のディケード方式
はなか便利印刷品であった

ロングウェーブTRラジオ
TR-604
OEM製造していた
トランジスタラジオ

1961-62
昭和36～37年

**菊水電子工業株式会社
へ社名を変更**
計測器とラジオの両分野で
特許取得による国内市場の拡大

ダイオードカーブトレーサー CBT-A
電圧増幅器用ダイオード電圧計
電子レンジ(1000W)の内部電圧
測定(1000V)を可能にした
ベストセラー製品

高圧電圧計 PV-107
一般電圧レンジで測定して
最大1000Vを測定できる
ベストセラー製品

計測器の発展

1966-68
昭和41～43年

第一次躍進の年
昭和41年度、売上1.5億円、
計測器事業が売上全体の約70%、計測器の主力
5C(カー、カラーテレビ、カラー1) 計測
の発展とともに、高圧電圧計は高圧に
対応した高圧電圧計

高圧電圧計 PV-107
高圧電圧計 PV-107
高圧電圧計 PV-107
高圧電圧計 PV-107

1971-74
昭和46～49年

**創立20周年
第一次躍進の年**
名古屋、水戸に営業所開設
電子計測器の導入

20周年頃の日本社会

1981-82
昭和56～57年

米空軍との大型商談
オシロ7160台(23億円)！
オシロの商談として米空軍の軍用計測器の
北米米空軍所開設

計測器で米軍の一番札
毎日新聞
初

一面で報じる毎日新聞(1982)

一面で報じる毎日新聞(1985)

1985-88
昭和60～63年

オシロスコープCOM3000シリーズ
グッドデザイン産業機械部門大賞を受賞
オランダに「菊水ヨーロッパ」を設立
英国マルコーニ・インスツルメンツ社と
日本総代理店契約締結

計測器業界初の快挙！
グッドデザイン産業機械部門
大賞を受賞した
オシロスコープ
COM3000シリーズ

オシロスコープ COM7000シリーズ
営業が歩かすとも広島だけで
どんな注文が舞い込んだヒット製品

1989-91
平成元～3年

株式会社店頭公開
西東京営業所 開設
専属物流会社
ケイアールシー株式会社設立

1991年11月
株式を店頭市場に新規公開
公募による新株発行数：75万株
発行価額：2,330円/1株

株式公開の頃の日本本社(川崎市中原区)
平成3年3月期 売上高112億、従業員数386名であった

1989年6月
立川市に
西東京営業所
開設

2000-01
平成12～13年

ISO14001認証取得
1717台の生産による環境改善
創立50周年を迎える(2001)
40周年2001年度グッドデザイン賞を受賞

2001年度発行の4製品がグッドデザイン賞を受賞！

GOOD DESIGN AWARD 2001

大規模電子レンジ用電源
電源ユニット
電源ユニット
電源ユニット

1995
平成7年

ISO9001認証取得
計測器の品質管理
計測器の品質管理
計測器の品質管理

1995年12月22日
創業25周年記念
ISO9001認証取得
登録証番号:JQA-1100

●電子レンジ用電源
●電源ユニット
●電源ユニット
●電源ユニット

沿革

2002 平成14年

上海に駐在事務所
中国でのサポート体制
構築EDI（電子商取引システム）
「SKP」稼働開始

世界の工場として発展する中国！
日系企業の現地工場が増え、
現物としても高品質サポート体制の
拡充が急務となった...

富士通（中国）株式会社
設立（当時の写真）

富士通（中国）株式会社
設立（当時の写真）

2005 平成17年

燃料電池評価技術に関する技術協力を
中国科学院大連化学物理研究所
（DICP）と締結
H₂の輸送技術について
パルスタック工業との協力を発表

燃料電池評価技術の確立を目指して
中国科学院大連化学物理研究所
（DICP）と技術協力を発表

高圧水素発生装置
PAT40-800T 発表

コンパクト電源
PCD3000 発表

電力電子（電力）の
研究・開発・製造
TOS3000 発表

2006 平成18年

創立55周年記念式典！
中華人民共和国内、上海
清水貿易（上海）有限公司
PSE法＜電気用品安全法＞

創立55周年を記念して
祝賀会・洋上パーティを開催

清水貿易（上海）
有限会社を設立

電力電子機器
PL25000 発表

電力電子機器
TOS3000 発表

電力電子機器
TOS3000 発表

2009 平成21年

国テクリオ社より
エアロフレックス社製アビオニクス製品の
日本販売代理店権を継承
中国拠点の合理化

エアロフレックス社製
アビオニクス製品の
日本販売代理店権を継承

インテリジェント・バイポーラ電源PM2000シリーズ 発表

充電システムコントローラPFX2011 発表

2011 平成23年

コーポレートサイトの
デザイン（日本語ページ）を
全面リニューアル

充電システムコントローラPFX2011 発表

充電システムコントローラPFX2011 発表

充電システムコントローラPFX2011 発表

2012 平成24年

EV自動車レース
（JEVRA、バイクスEV
北関東支部所属）

PRINCE EV CHALLENGE
TEAM SHOW X KIKUSUI

電気自動車によるカーレースをスポンサー

JEVRA X KIKUSUI

2013 平成25年

電力中央研究所
PCB（パワーコンディショナ）電圧試験装置
大容量交流電源PCRB1000LEを導入
Amazon販売開始

電力中央研究所 電圧試験センターに
大容量交流電源PCRB1000LEを導入

大容量シリーズを継承発表！
電力中央研究所 電圧試験センターに
大容量交流電源PCRB1000LEを導入

2016-18 平成28～30年

ソリューション製品サイト
KIKUSUI magを開発
販路学管マンガ（ハイカワ）公開
本社を新設（新設）に移動
技術センターを「電気試験センター」に改称

ソリューション製品サイト
KIKUSUI magを開発

販路学管マンガ（ハイカワ）公開

本社を新設（新設）に移動

技術センターを「電気試験センター」に改称

2019-21 令和1～3年

電気安全規格試験マルチアナライザ
TOS9300シリーズ
お客様対応チャットボット試験装置
オーディオスピーカー USBシリーズ

電気安全規格試験マルチアナライザ
TOS9300シリーズ

お客様対応チャットボット試験装置

オーディオスピーカー USBシリーズ

2014-15 平成26～27年

直流電源PMX-A
マスコットキャラ
清水貿易（上海）有限

直流電源PMX-A
マスコットキャラ

清水貿易（上海）有限

直流電源PMX-A
マスコットキャラ

● 事業活動トピックス

<新製品>

<イベント>

- ・TOS9213AS(太陽光パネル用耐電圧・絶縁抵抗試験器)
- ・PLZ-4W(電子負荷)スマートラックの拡充



2013

- ・TOS7210S(PID絶縁試験器)
- ・TOS5200(耐電圧試験器)



2014

- ・PMX-Aシリーズ(小型直流電源)



2015

- ・PLZ-5Wシリーズ(電子負荷)



2016

- ・PWR-01シリーズ(直流電源)



2017

- ・PCR-WE/WE2シリーズ(交流電源)



2018

- ・TOS9300シリーズ(電気安全規格試験マルチアナライザ)



2019

- ・PAN-Eシリーズ(直流電源)



2020

- ・PCR-WEA/WEA2シリーズ(交流電源)
- ・PCJシリーズ(交流電源)
- ・TOS9300 ラインアップ追加



2021

- ・PCR-WEA/WEA2 シリーズ(交流電源) フロントパネル変更
- ・ハイレートバッテリーテスタ PFX2731S



2022

- ・双方向大容量直流電源 PXBシリーズ



2023

- ・富士勝山事業所にデモルーム開設
- ・Webサイト「KIKUSUI mag」開設
- ・本社を横浜市都筑区茅ヶ崎中央へ移転
- ・菊水創発センター リノベーション工事完了
- ・KIKUSUI AMERICA, INC. トーランス市に移転
- ・ドイツ デュッセルドルフに駐在員事務所を開設
- ・菊水貿易(上海)有限公司 北京分公司を開設
- ・創立70周年記念 昭和レトロ計測器ブルートウースピーカー3機種発売
- ・会社分割による持株会社体制へ移行
- ・菊水電子工業株式会社及び菊水エムズ株式会社2社を承継会社とする吸収分割
- ・菊水貿易(上海)有限公司 広州分公司を開設
- ・Kikusui Electronics Europe GmbHを設立

● ビジネスモデル

当社グループの独自性

計測技術と電源技術の両方を有していること！

(微小から大電流まで、電気エネルギーを高精度で制御、測定する技術・ノウハウ)

[顧客]

メーカー

(電機・電子機器、電子部品、自動車)

研究

開発・設計

生産

検査

メンテナンス

公的研究所・機関
教育機関(大学等)

工業試験所
(テストラボ)

公的機関
(防衛、警察等)

グローバルに販売展開！

電子計測器

電気のモノサシ、産業の「マザーツール」として、家電製品、OA機器、電子製品などの「安全性」や「正確性」の測定・試験に使用されます。近年は、**自動車のノイズ耐性(EMC)**に関する試験、また**EV用バッテリーの絶縁性能試験**の測定需要が高まっています。

耐電圧試験器

EMC試験器



電源機器

研究開発や製造工場などで、安定した電力(直流・交流)を供給する設備として使用されます。近年は、**宇宙産業・電子部品市場**での評価試験や製造設備用として直流電源、**ハイブリッドカー・電気自動車**の評価に必須となる電子負荷装置(電力を消費する装置)、**パワーコンディショナー**などの**評価**に必要な交流電源の需要が高まっています。

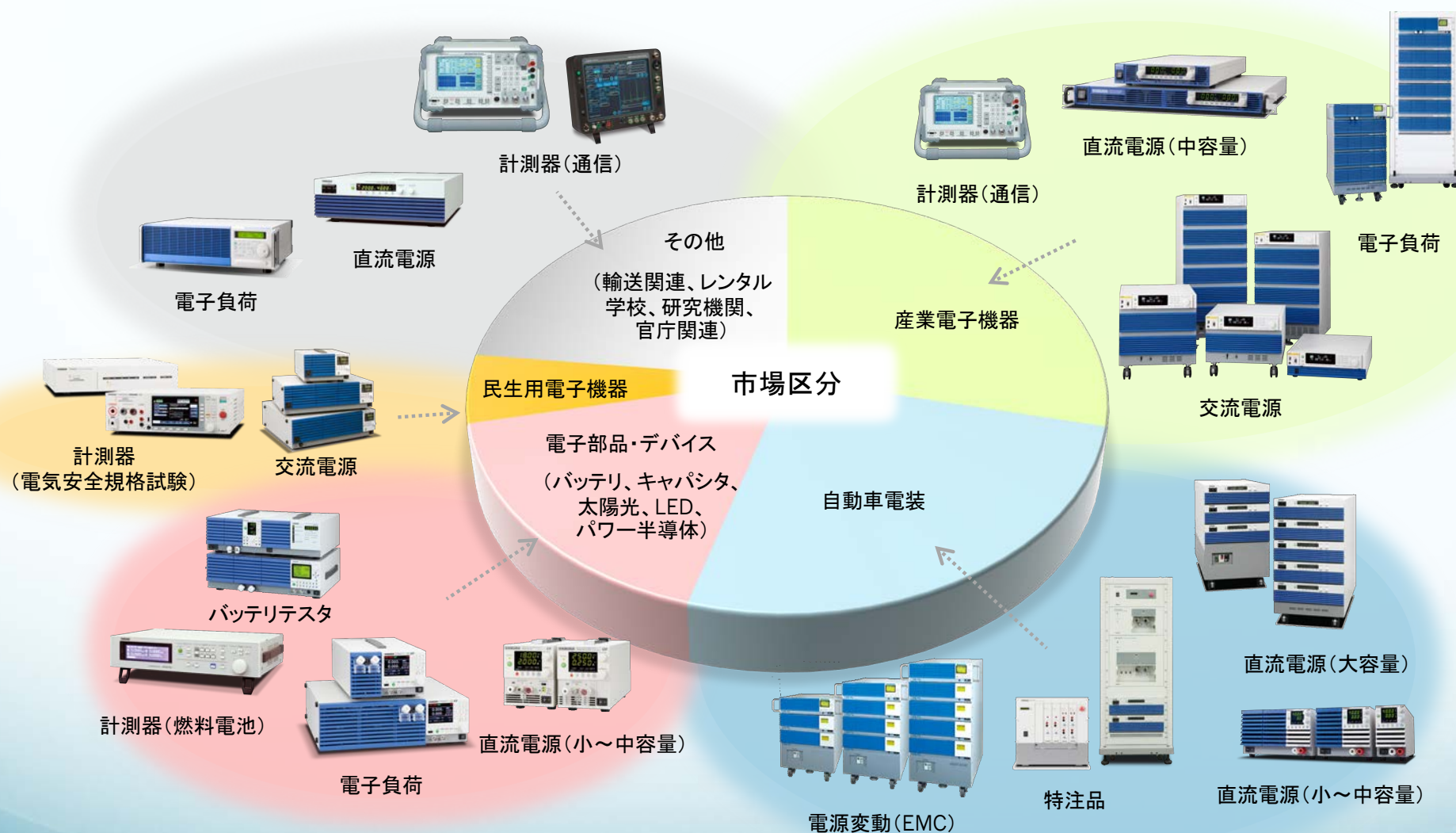
直流電源

交流電源

電子負荷



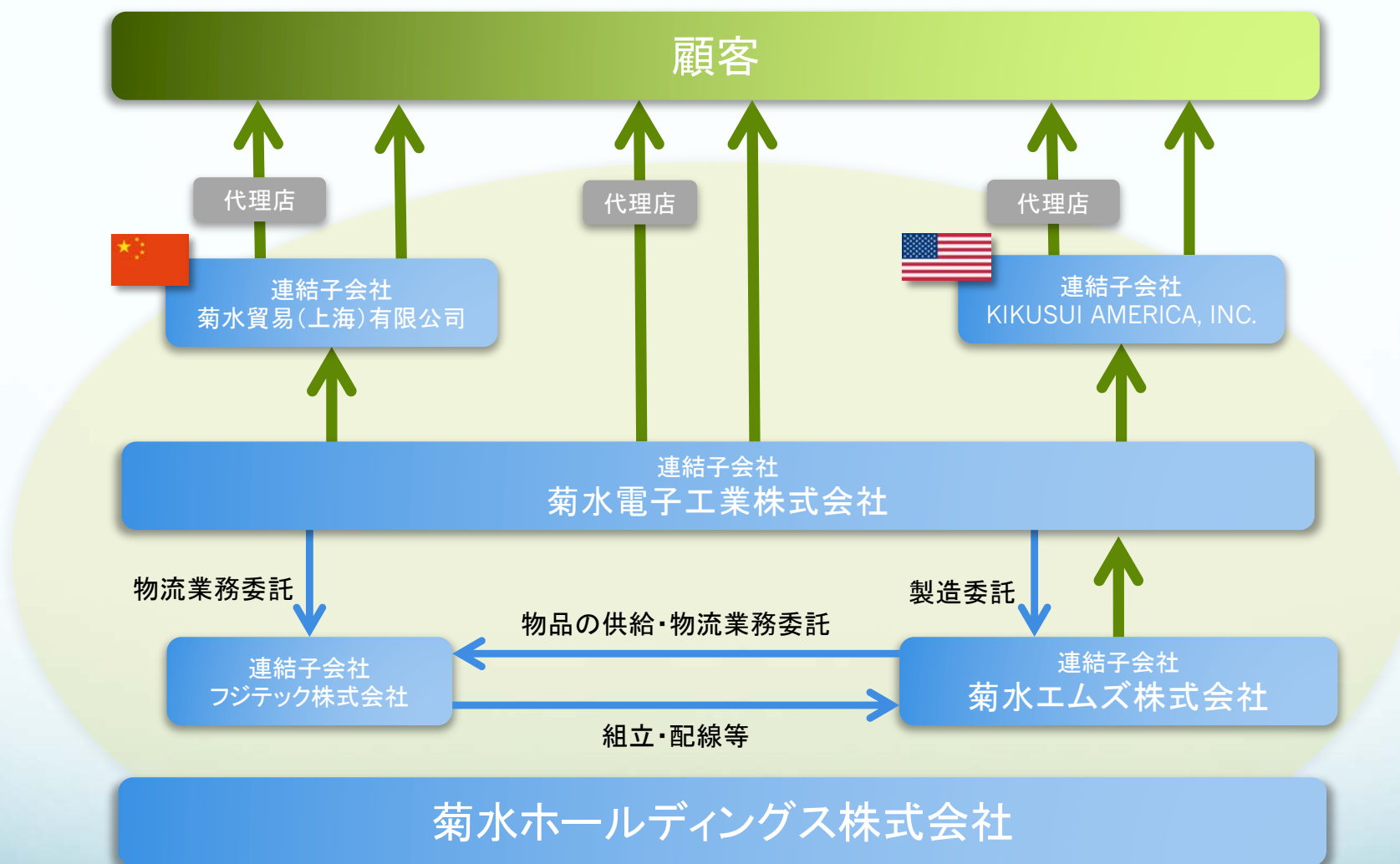
● 市場と製品



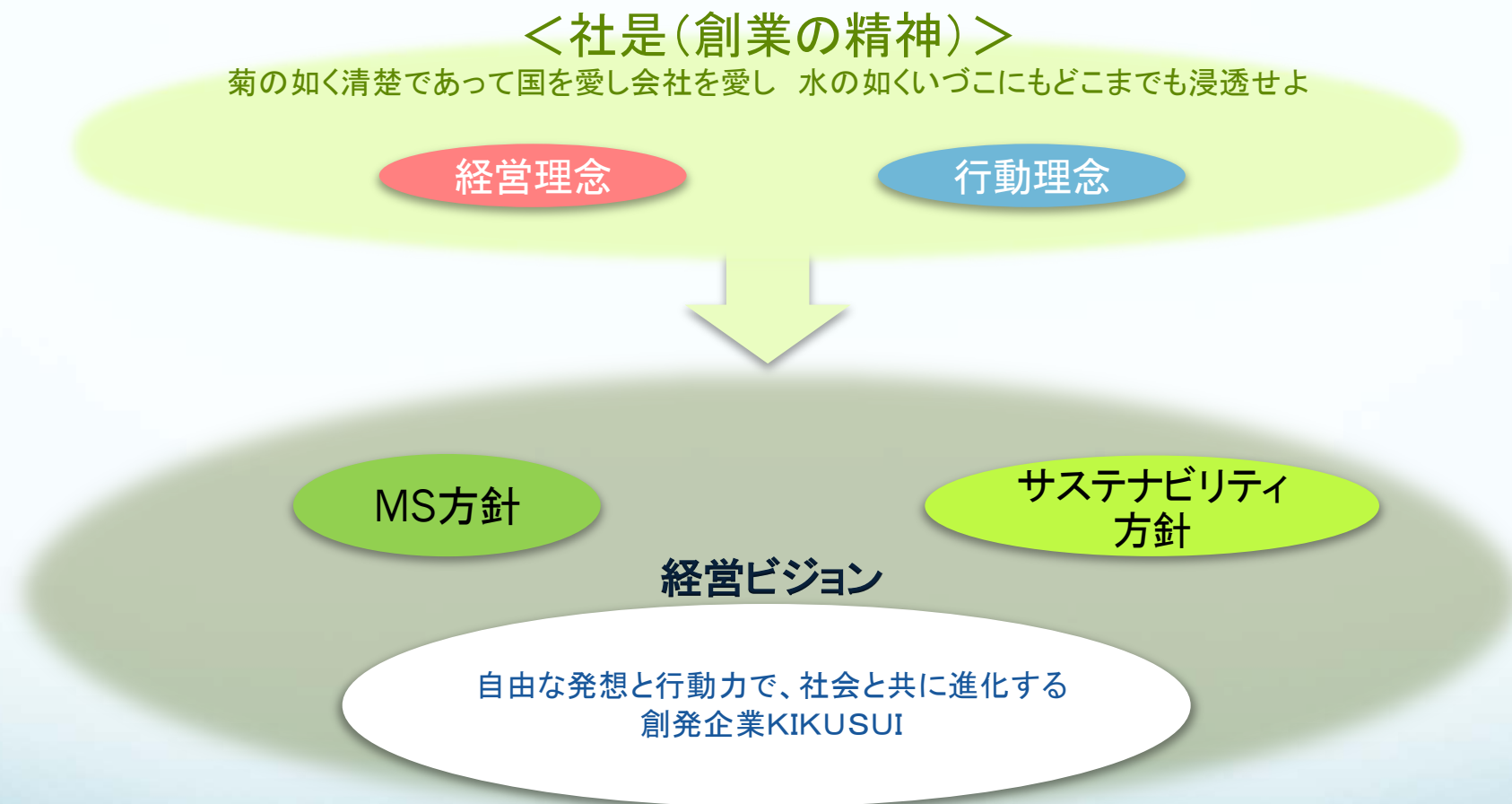
(2023年3月期実績による)

● 事業系統図

← 製品

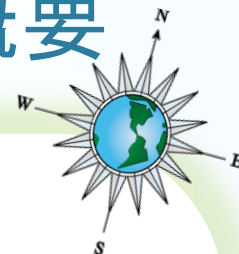


- コーポレートステートメント



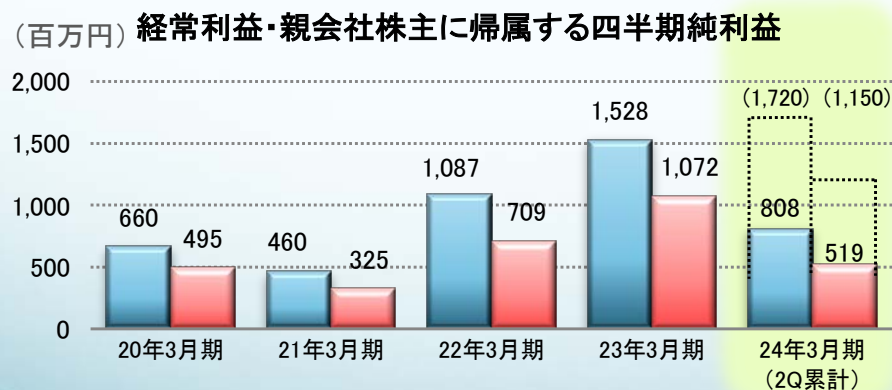
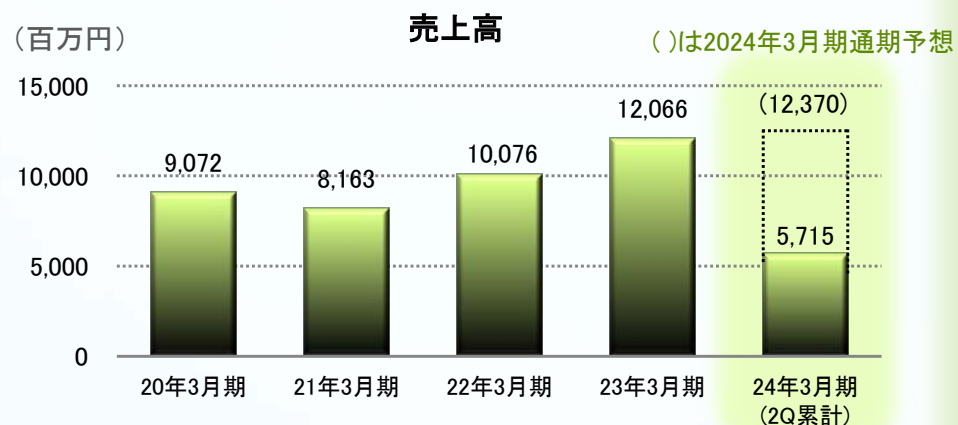
2024年3月期 第2四半期累計 連結業績概要

2024年3月期 第2四半期累計 連結業績概要



● 決算サマリー

- 売上高・経常利益・親会社株主に帰属する四半期純利益



■ 経常利益 ■ 親会社株主に帰属する当期純利益

経営の概況

当社グループが属する電気計測器業界においては、世界各国でのカーボンニュートラル、SDGs達成に向けた取り組み等により、自動車関連市場、電池関連市場など、グローバルで需要の回復が進んでおりますが、半導体関連市場においては、半導体メモリ等の世界的な需要減速に伴い、在庫調整や設備投資が延期されるなどの動きが見られました。

このような状況の中、当社グループは、好調に推移した受注環境の下、グローバル需要を捉えるべく、重点市場である航空宇宙、電池、自動車のCASE(コネクテッド、自動運転、シェアリング、電動化)、サーバー・ICT(情報通信技術)関連市場へ顧客ニーズに合わせたソリューション提案営業を積極的に展開し、新製品である双方向大容量直流電源PXBシリーズを中心に展示会への出展やWebを活用した販売促進活動等を進めるなど売上拡大に努めるとともに、原価低減にも努力を重ねてまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、57億1千5百万円(前年同四半期比5.2%増)となりました。

損益面におきましては、売上高が増加したこと、並びに依然として原材料の長納期化や円安の影響はあるものの、納期対応のための部品調達コストや設備投資需要の変動に伴う海外製品の仕入が減少したこと、売上増加に伴い人件費等固定費の回収が進んだことなどにより、営業利益7億6千万円(前年同四半期比20.5%増)、経常利益8億8百万円(前年同四半期比16.1%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益5億1千9百万円(前年同四半期比11.3%増)となりました。

2024年3月期 第2四半期累計 連結業績概要

● 損益計算書

	23年/3月期(2Q累計)		24年/3月期(2Q累計)		前年同期比	
	金額(百万円)	対売上構成比(%)	金額(百万円)	対売上構成比(%)	増減額(百万円)	増減率(%)
売上高	5,434	100.0	5,715	100.0	280	5.2
売上原価	2,802	51.6	2,709	47.4	△92	△3.3
売上総利益	2,632	48.4	3,005	52.6	372	14.2
販売費及び一般管理費	2,001	36.8	2,245	39.3	243	12.2
営業利益	631	11.6	760	13.3	129	20.5
営業外収益	82	1.5	79	1.4	△2	△3.3
営業外費用	16	0.3	31	0.6	14	88.8
経常利益	696	12.8	808	14.1	111	16.1
税金等調整前四半期純利益	696	12.8	808	14.1	111	16.1
法人税等	229	4.2	288	5.0	58	25.7
親会社株主に帰属する四半期純利益	466	8.6	519	9.1	52	11.3
1株当たり四半期純利益	55.96円		62.05円			

※単位未満の金額は切捨て、百分率は四捨五入。

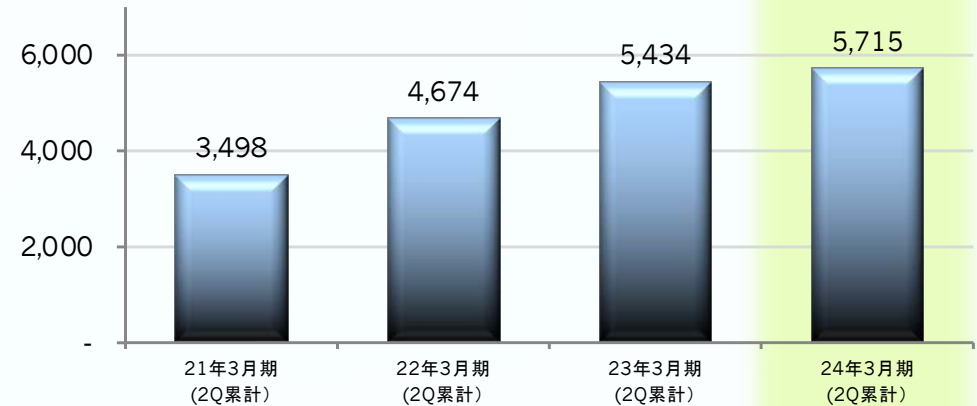
2024年3月期 第2四半期累計 連結業績概要

● 売上高と経常利益

- 売上高: 5,715百万円
【前年同期 5,434百万円】 **+5.2%**
- 経常利益: 808百万円
【前年同期 696百万円】 **+16.1%**
- 親会社株主に帰属する
四半期純利益: 519百万円
【前年同期 466百万円】 **+11.3%**

(百万円)

売上高



(百万円)

経常利益



Point



好調に推移した受注環境の下、グローバル需要を捉えるべく、重点市場である航空宇宙、電池、自動車のCASE(コネクテッド、自動運転、シェアリング、電動化)、サーバー・ICT(情報通信技術)関連市場へ顧客ニーズに合わせたソリューション提案営業を積極的に展開し、新製品である双方向大容量直流電源PXBシリーズを中心に展示会への出展やWebを活用した販売促進活動等を進めるなど売上拡大に努めるとともに、原価低減にも努力を重ねてまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、57億1千5百万円(前年同四半期比5.2%増)となりました。

損益面におきましては、売上高が増加したこと、並びに依然として原材料の長納期化や円安の影響はあるものの、納期対応のための部品調達コストや設備投資需要の変動に伴う海外製品の仕入が減少したこと、売上増加に伴い人件費等固定費の回収が進んだことなどにより、営業利益7億6千万円(前年同四半期比20.5%増)、経常利益8億8百万円(前年同四半期比16.1%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益5億1千9百万円(前年同四半期比11.3%増)となりました。

2024年3月期 第2四半期累計 連結業績概要

● 製品群別売上概況

- 電子計測器: 1,333百万円
【前年同期 1,418百万円】 $\Delta 6.0\%$
- 電源機器: 4,155百万円
【前年同期 3,803 百万円】 $+9.3\%$
- その他: 226百万円
【前年同期 213百万円】 $+6.3\%$

Point



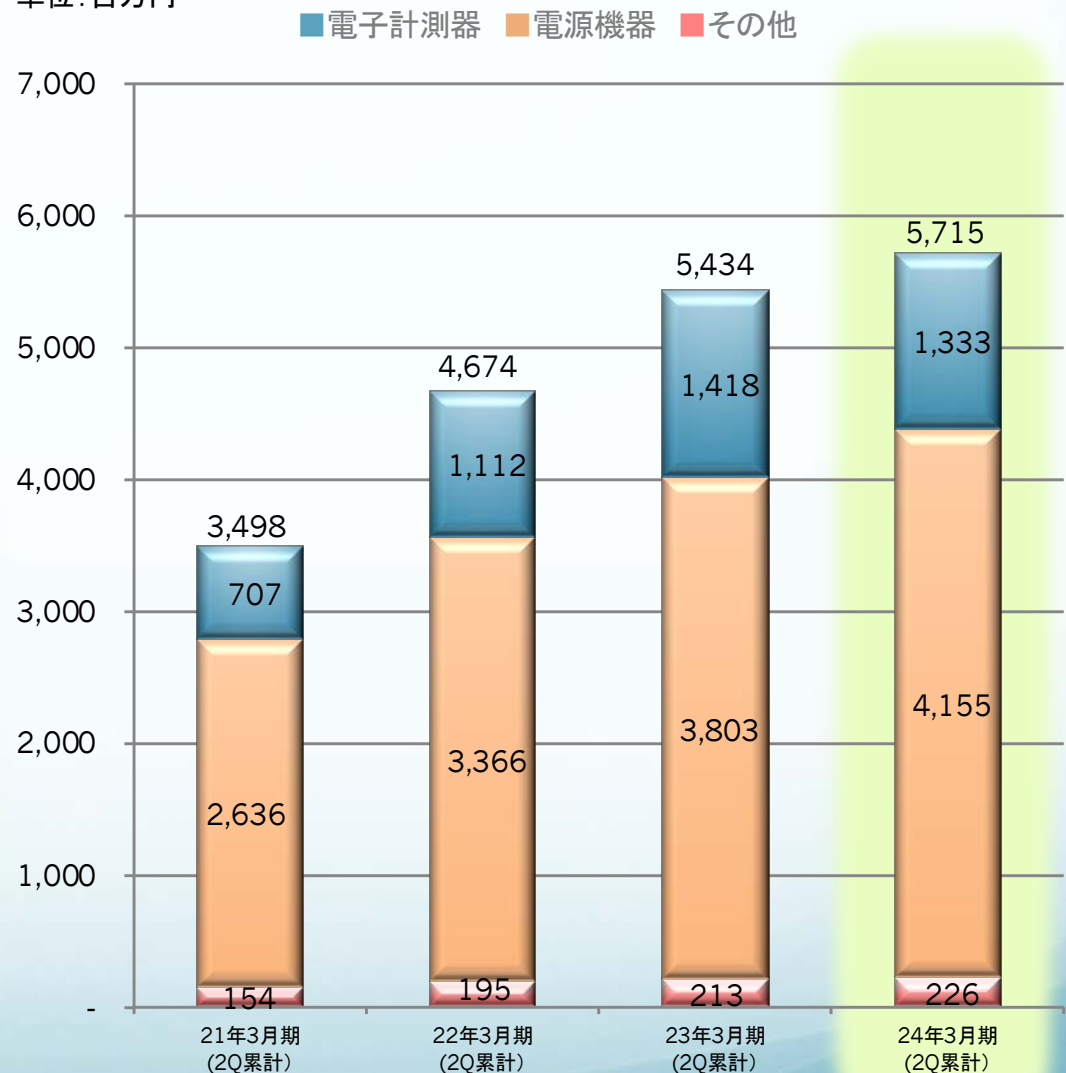
《電子計測器群》

電子計測器群では、航空機器用電子機器の測定器は、動きが見られ、好調に推移いたしました。安全関連試験機器は、EV(電気自動車)用バッテリーの耐電圧・絶縁抵抗試験器として電池関連市場並びにパワー半導体関連市場向けに動きがみられましたが、中国における電池関連市場の設備投資が抑制されたことにより、低調に推移いたしました。以上の結果、売上高は13億3千3百万円(前年同四半期比6.0%減)となりました。

《電源機器群》

電源機器群では、直流電源は、宇宙産業市場及び車載関連市場への評価試験や製造設備用として好調に推移いたしました。交流電源は、車載関連市場及びエネルギー関連市場への評価試験や製造設備用として好調に推移いたしました。電子負荷装置は、車載関連市場及びエネルギー関連市場への評価試験用として動きが見られました。以上の結果、売上高は41億5千5百万円(前年同四半期比9.3%増)となりました。

単位: 百万円



2024年3月期 第2四半期累計 連結業績概要

● 製品群別売上高構成比

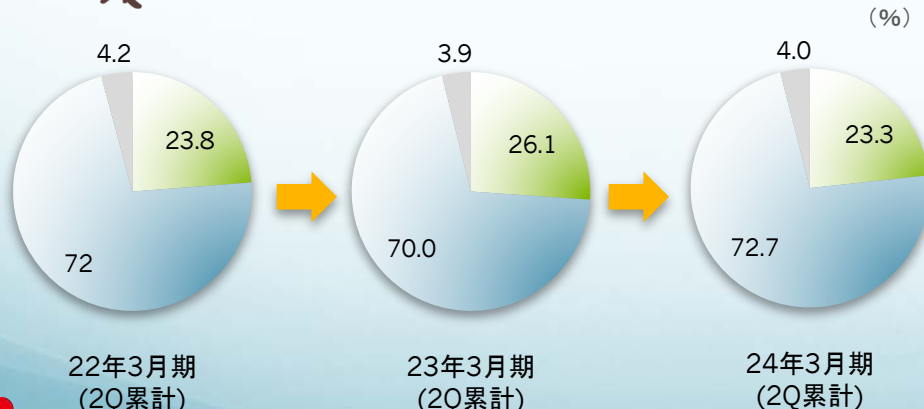
- 電子計測器: 23.3%
【前年同期 26.1%】 $\Delta 2.8\%$
- 電源機器: 72.7%
【前年同期 70.0%】 $+2.7\%$
- その他: 4.0%
【前年同期 3.9%】 $+0.1\%$

Point



電源機器の構成比率が増加し、
電子計測器の構成比率が減少しました。

■ 電子計測器
■ 電源機器
■ その他



● 製品群別売上総利益率

- 電子計測器: 40.3%
【前年同期 43.3%】 $\Delta 3.0\%$
- 電源機器: 55.2%
【前年同期 48.6%】 $+6.6\%$

売上総利益率: 52.6%

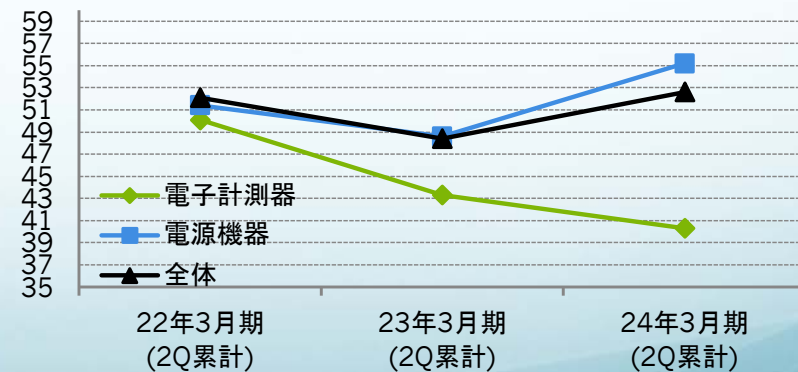
【前年同期 48.4%】 $+4.2\%$

Point



電子計測器の売上総利益が減少しましたが、
原価低減と経費節減に努力を重ね、
売上総利益率は増加しました。

(%)



2024年3月期 第2四半期累計 連結業績概要

● 海外売上高

- 北米: 784百万円
【前年同期 477百万円】 **+64.3%**
- 欧州: 231百万円
【前年同期 391百万円】 **△40.9%**
- 中国: 1,134百万円
【前年同期 1,418百万円】 **△20.0%**
- その他アジア: 624百万円
【前年同期 684百万円】 **△8.8%**
- その他の地域: 30百万円
【前年同期 15百万円】 **+93.2%**

海外販売高合計: 2,805百万円
【前年同期 2,988百万円】 **△6.1%**

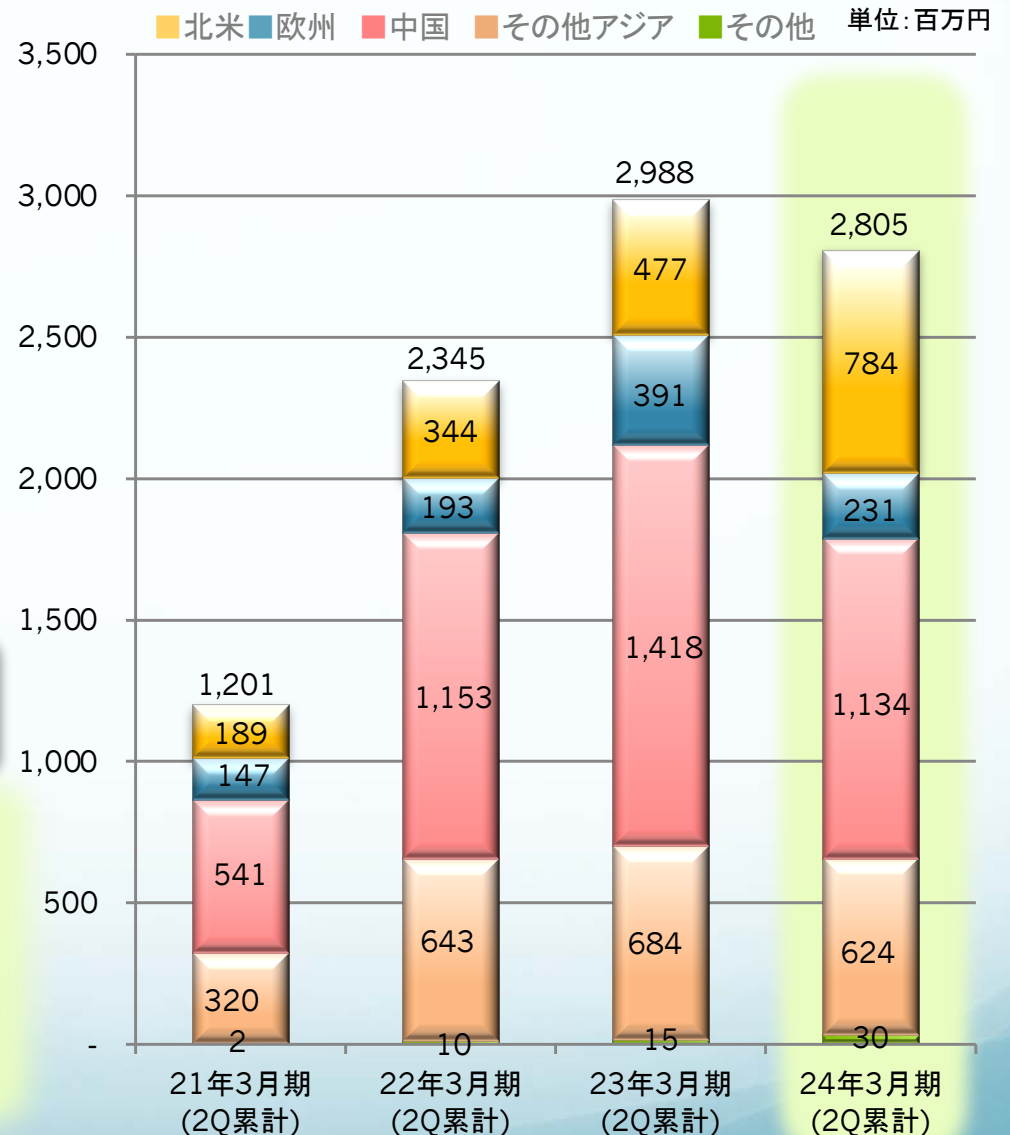
Point



米国では、IT(情報技術)関連市場及び半導体関連市場において設備投資抑制の動きがみられるものの、宇宙産業市場及び車載関連市場への直流電源並びにグリーンエネルギー政策により需要が拡大しているエネルギー関連市場への交流電源や航空宇宙関連市場への電子負荷装置がそれぞれ好調に推移いたしました。

欧州では、車載関連市場への交流電源に動きがありましたが、低調に推移いたしました。

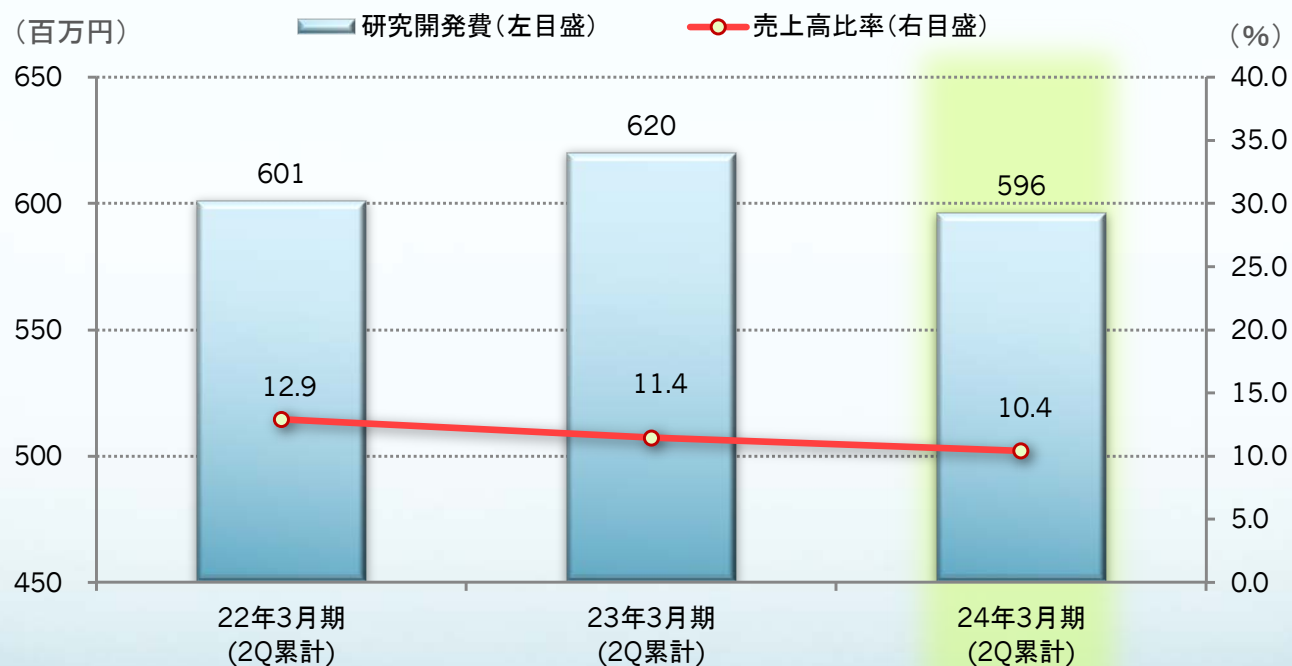
アジアにおいては、中国では、電池関連市場や車載関連市場の設備投資抑制により低調に推移いたしました。一方、韓国では、電池関連市場への安全関連試験機器や車載関連市場への直流電源に動きがあり、東南アジアでは、車載関連市場などの需要に一服感があり、低調に推移いたしました。



2024年3月期 第2四半期累計 連結業績概要

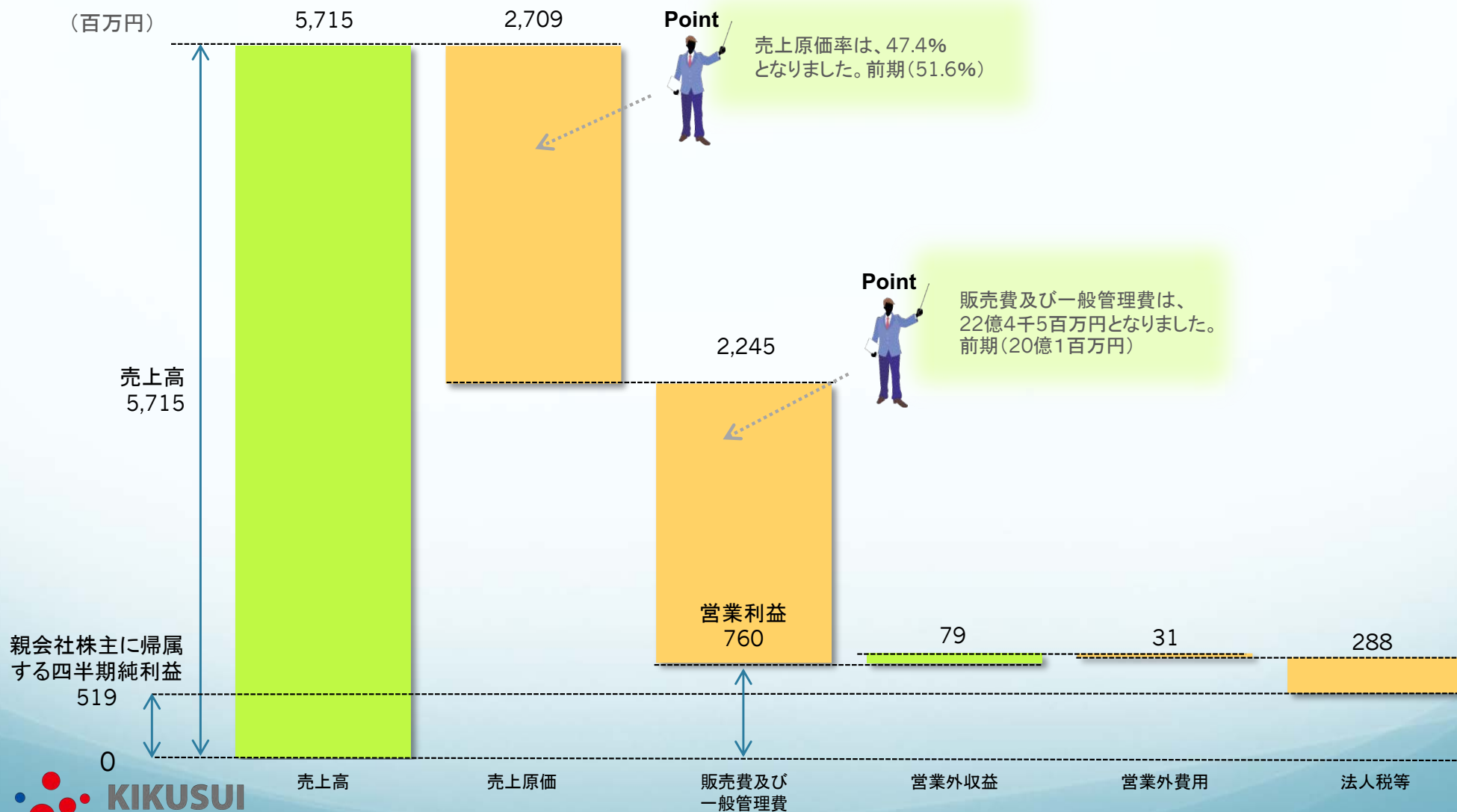
- 研究開発投資(対売上高比率)

- 596百万円(10.4%)
【前年同期 620百万円(11.4%)】



2024年3月期 第2四半期累計 連結業績概要

● 損益の概況



2024年3月期 第2四半期累計 連結業績概要

● 貸借対照表

(百万円)

【資産の部】	23/3/31	23/9/30	増減
流動資産合計	9,483	9,042	△440
固定資産合計	6,001	6,158	157
資産合計	15,484	15,201	△283
【負債の部】	23/3/31	23/9/30	増減
流動負債合計	2,495	1,754	△740
固定負債合計	917	966	48
負債合計	3,412	2,721	△691
【純資産の部】	23/3/31	23/9/30	増減
資本金	2,201	2,201	－
資本・利益剰余金	9,367	9,588	221
自己株式	△760	△748	12
その他の包括利益累計額合計	1,263	1,437	174
純資産合計	12,072	12,479	407

2024年3月期 第2四半期累計 連結業績概要

● キャッシュ・フロー

【CF計算書】 単位: 百万円

	21年/9月期	22年/9月期	23年/9月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	279	90	356
投資活動によるキャッシュ・フロー	△52	△14	△106
財務活動によるキャッシュ・フロー	△168	△251	△319
現金及び現金同等物の増減額	73	△138	△52
現金及び現金同等物の期首残高	3,088	2,909	2,646
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,161	2,770	2,593

Point



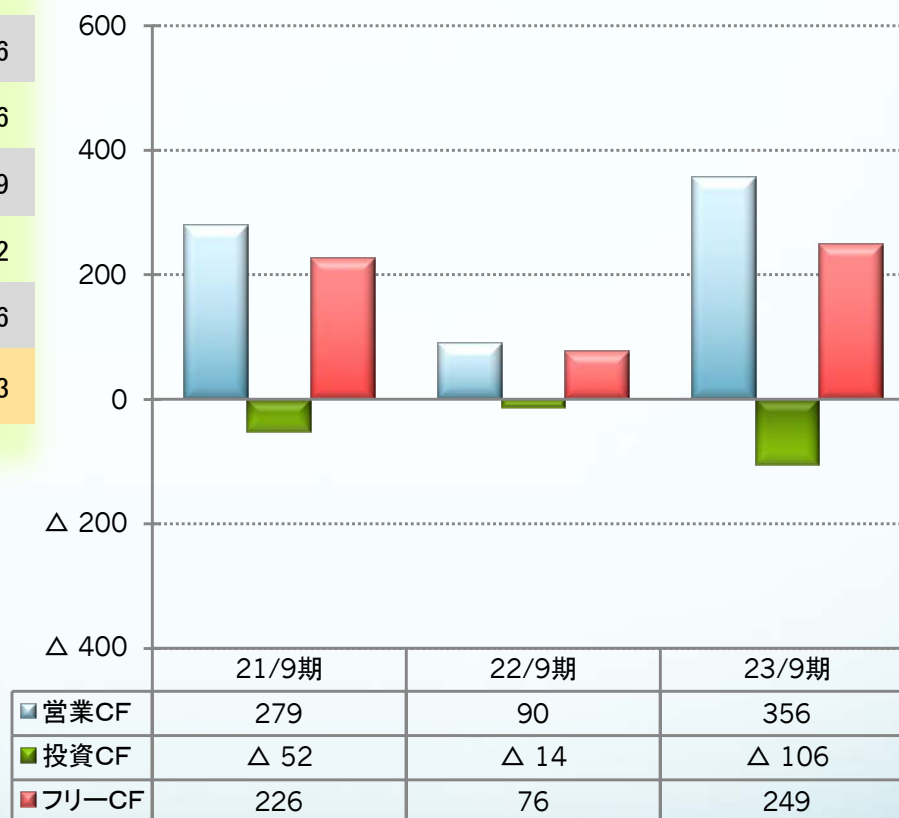
営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益の計上等による資金の増加が、仕入債務の減少等による資金の減少を上回り、3億5千6百万円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得等による資金の減少が、有価証券の売却等による資金の増加を上回り、1億6百万円の支出となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払い等により、3億1千9百万円の支出となりました。

現金及び現金同等物は、前連結会計年度の期末残高に比べ、5千2百万円減少し、25億9千3百万円となりました。

(百万円)



2024年3月期 連結業績予想

2024年3月期 連結業績予想

	23年3月期	24年3月期		
	通期実績(百万円)	通期予想(百万円)	前期比増減額(百万円)	前期比増減率(%)
売上高	12,066	12,370	304	2.5
営業利益	1,531	1,680	149	9.7
経常利益	1,528	1,720	192	12.5
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,072	1,150	78	7.2

	23年3月期	24年3月期	
	通期実績(円)	通期予想(円)	前期比増減額(円)
1株当たり 配当金	38.00	38.00	0.00

本資料における注意事項

本資料は、2024年3月期第2四半期決算の業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。また、本資料は2023年10月30日現在のデータに基づいて作成されております。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し、又は約束するものではなく、今後予告なしに変更されることがあります。

[本資料および当社IRに関するお問い合わせ先]

菊水ホールディングス株式会社 総務部 IR担当

TEL:045(482)6912 E-mail:ir@kikusui.co.jp URL:<https://kikusui-holdings.co.jp/>